

那覇市医師会・浦添市医師会合同開催 多職種意見交換会
アンケート集計

(開催日)平成28年3月15日(火)

・在宅医療が果たすべき役割と訪問診療の実際について (喜納先生講義)

(医師)

- ・実際の在宅医療の場面が見れて良かったと思います。
- ・クリニックでの具体的な訪問診療の紹介があり勉強となった。イメージが付きやすい。
- ・多死の時代が来るのが必然なので、疾病予防して寝たきりを予防のため、しっかり日常生活のあり方を徹底的に指導することが大切なことを痛感しました。

(歯科医師)

- ・わかりやすい形で高齢者の統計等の総論を教えてくださいました。
- ・やはり喜納先生も発表でおっしゃっていましたが、在宅医(歯科も含めて)が不足している。マンパワー不足。医師だけでなく、他の職種も不足している様子。やはり皆で楽しい在宅医療を実行する。「楽しい」、「やりがいのある」というテーマを前面に出して、マンパワー不足をなくしていきたい。

(看護師)

- ・「いろはにすめし」、活用したいと思います。
- ・沖縄の在宅医療の現状を知ることができました。
- ・役割を担うことの大切さを感じました。
- ・とても解りやすかったです。なかなか病院の医師は在宅での医療処置など、まだまだわかっていないことが多いです。医師間でも病院と関わりをもっていき、スムーズな在宅移行になるようにして欲しいです。
- ・知識として在宅医療の概要の理解が深められた。早口で聞き取りにくいことがあった。資料があれば良かった。
- ・在宅医療の全体像の理解に繋がりました。是非、急性期病院の医師、看護師、MSWにも聴いて欲しいと思いました。急性期病院、施設と在宅医療との連携、このような研修会があれば良いと思います。
- ・分かりやすい内容でした。4年位訪問診療に関わっていたので振り返りもできました。ありがとうございました。(認知症地域支援推進員)

(薬剤師)

・家族・本人が希望することを最初に確認することで、介護保険の中でどこまで本人と家族を支援できるかを連携をとり話し合っている。

・喜納先生のお話が解りやすく、ぜひ在宅をどんどんやってみたいと感じました。しかし、チャンスがなく、これまでも配達だけのことが多く、とても残念です。機会がありましたら、ぜひ薬局に声を掛けて頂きたいと思っています。

・在宅医療の実際(本質)が理解されてないことが多いので、色々な場面でのアピールの大切さがわかった。

・在宅での看取りが自然なことであり、一人の人間の生と死に関われることはすごいことだと思いました。

・薬局でも在宅医療が重要になっている。今回の話で難しい問題だと思いました。

・訪問診療までの流れを知ることができ良かったです。より他職種と関わる必要などを考えさせられました。積極的に地域包括等に顔を出していく必要があると感じました。

・これからの在宅医療のあり方を再認識することができました。訪問診療への関わり的重要性を確認しました。

(保健師)

・まだ在宅医療を担っている方との交流があまり経験がなかったので、良い機会でした。

(栄養士)

・はじめて知りました。わかりやすく統計、時系列、将来(団塊世代の私にとっては)を予測しての説明に感謝です。沖縄県内で在宅医療をやっている先生がいることに感動です。喜納先生！

(言語聴覚士)

・これから在宅医療に関わる上で役割を把握する必要性がわかりました。4人に1人は高齢者と言われている時代のため、今後、在宅医療をもっとまわりに知ってもらふ必要性が感じられました。

(福祉用具専門相談員)

・具体的な事例など交えて紹介していただき、分かりやすかったです。

・とても分かりやすく、スライドも見やすかったです。先生の話が良かった。あまり専門用語を使われると理解できない場合が多くて頭に入らない。

(社会福祉士・医療ソーシャルワーカー)

・今後、看取りの対応ができる施設や在宅を支えるチーム医療職員(クリニック)を期待したい。また、認知症の医療の連携ができる在宅医療に期待したい。

・病院での医療、在宅での医療の違いがよくわかった。今後は在宅医の在り方が問われる。担当者会議、カンファレンスの重要性もよく理解できました。

・レジュメが欲しかったです。今回の研修で一番聞きたかったところです。

・訪問診療と往診の違いが分かって良かった。病院から退院時に訪問診療へ繋ぐケースはありますが、退院後の様子を知ることはなかなかないので、実際の事例を紹介してもらえて良かった。

・すごく興味深く、今どきのテーマだと思いました。

・患者さんのQOL充実を考え、より住み慣れた環境で暮らしながら医療を展開できれば良いと思った。

・在宅でできる医療が高度化しているが、在宅で過ごすことが「本人らしく」いられるよう医療ありきにならないような関わりが大切だと考えた。「本人らしくあるための医療」を忘れず、本人らしい生活を支援するチームの一員として、これからも在宅医療に関わっていきたいと思った。

・病院の医師、看護師が在宅移行のバリアにならないよう、院内の勉強会を進めていけたらと思います。

(介護支援専門員)

・在宅医療で行える行為や最新の検査機器が学べました。ありがとうございます。

・訪問診療に助けられています！レントゲン等も在宅でできるようにして欲しい。

・喜納先生の取り組みや医師会の動き等が見れて良かったです。さすが在宅に関わる医師だと思いました。急性期や回復期の医師やコメディカルスタッフ等も在宅医療の現状を理解しながらケア対応等行えれば、入院～退院の連携も図りやすくなると思う。

・在宅医療を強化するための取り組みが伝わってきました。

・とてもわかりやく良かったです。

・良かったです。

(その他) * 医療事務、製薬会社スタッフなど

・きなクリニックの訪問診療に関しての体制がしっかりしてて勉強になった。

・途中からの参加で残念でした…。

・医療と介護、できれば一般人の方にも在宅医療の正しい理解がもっと進めば良くなるのではと感じた。市民公開講座も利用していきたい。

・大変わかりやすく、現在の在宅医療、訪問診療の現場がわかりました。また、喜納先生の外科的対応もできて、マルチな医療を行っているのにはスペシャルなドクターだと感じました。同じような志のドクターがもっと増えればと思います。

・在宅医療における基礎知識から具体例(実際の活動)も学ぶことができ勉強になりました。また、患者さん個々の心温まるエピソードもお話し頂き感動致しました。

・実際に在宅医療を行っている映像等を観ることができて、先生・患者目線で知ることができて良かったです。今、在宅医療の重要性が話しになっていますが、少しは知識が増えたと思います。

・末期癌以外で、在宅で看取ることを選択に入れることが少ないと感じました。いつまで続くのか…という介護者の負担を考えてしまう。訪問は基本介護4以上をもう少し緩和して欲しい。